



大切な情報



知っておくと便利な情報



動画



カメレオンペンをより良くご使用頂くためにも、必ず説明書をお読み下さい。
www.chameleonpens-japan.comのホームページには、使用方法の説明やその動画、無料でダウンロード出来る資料等をご用意しております。是非ご覧下さい。



カメレオンペンには、2つの使用方法があります。

1. 一般的なアルコールマーカーとして。
2. ミキシングチェンバーを使用して、色の濃淡を表現するアルコールマーカーとして。

ニブについて:カメレオンペンには、形の異なる2つのニブが、両サイドに付いています。片方には日本製のブラシニブが、もう片方には日本製のラウンドニブが付いています。どちらのニブも濃淡を表現することが出来ます。また、どちらも簡単に取り換える事が可能です。

ラウンドニブ:固めのニブです。輪郭を描いたり・小さいスペースを塗るのにお勧め。細かい作業に向いています。
図:1a



ブラシニブ:色を塗るためのニブです。大きいスペースに、綺麗なグラデーションを表現するのに適しています。柔らかいニブなので、優しくご使用頂けますと、長持ちします。図:1b



ご購入頂き初めてブラシニブを使用した際、ブラシ先が固く感じられます。使用するに従い、すぐにペン先は柔らかくなりますので、無理な力を加えないで下さい。ペン先が柔らかくなった状態、つまりブラシ先が少し崩れ、広がった状態がベストな状態です。この状態が、ブラシニブの特性を最大限に引き出します。図:1c、1d

ご注意:ブラシニブは、非常にデリケートです。永くご愛用頂くには、優しくご使用頂けますようお願いいたします。また、ニブが劣化した場合、簡単に取替えが可能です。

高温多湿の場所、直射日光のあたる場所での保管はお止め下さい。

新品時
(図:1c)



インクについて:

プロフェッショナル用アルコールインクを使用しています。無害・ほぼ無臭・acid-free(乾燥時)ですので安心してご使用頂けます。

紙について:

アルコールインクに適した紙や厚紙をお勧めします。一般の紙を使用しても表現に問題はありますが、紙裏に移ることがございます。



ディテールペンについて:

輪郭などを描くためのペンです。両サイドには、太さの異なるニブが付いています。(0.6mmと0.4mm)。水と顔料をベースにしたインクを使用しており、カメレオンペンと重ねて使用しても滲みません。

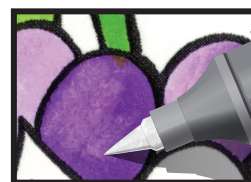


ブレンドペンについて:

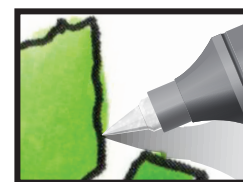
ミキシングチェンバー内に入っている、トーニング液が入ったペンです。両サイドに、それぞれラウンドニブとブラシニブの2つが付いています。

ご使用例

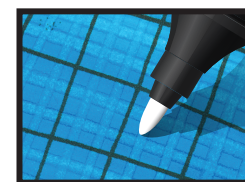
1. 色を淡くしたいとき。図:2a
2. 輪郭からはみ出してしまったインクを、輪郭の中に押し戻したいとき。図:2b
3. 表面に模様を表現したいとき。図:2c



(図:2a)



(図:2b)



(図:2c)



インクの詰替えについて

ペンのインクとミキシングチェンバーのトーニング液は、詰替えをすることが可能です。インクの色が薄くなったり、ミキシングチェンバーのトーニング液の出が悪くなりましたら、詰替え時期です。全ての色のインクとトーニング液は、25mlの詰替えボトルをご用意しております。



詰替え方法は、ホームページの動画でご覧下さい: www.chameleonpens-japan.com

描く素材:素材を選ばずほとんどの素材に描くことが可能です。木材・金属・ガラス・プラスチック・陶器などに描くことが可能です。描いた後の作品は、一般のアルコールペンの作品と同様、直射日光の当たらないところでお飾り下さい。そうすることで色褪せを防ぐことが出来ます。

保管:保管の際は、ペンを寝かせて保管をお願いします。寝かした状態で保管することでインクが均等に広がり、両サイドのニブからインクが出やすくなります。立てて保管された場合や持ち運び際に立てて持ち運びされた場合などは、しばらく横に寝かしてからご使用下さい。

4

一本のペンで濃淡を表現する方法

それぞれのペンには、ミキシングチェンバーが付いています。ミキシングチェンバー内のトーンング液は、水彩絵の具を水で薄める様にペン先を薄め、淡いトーンを作り出します。描き始めると、最初は淡い色が、その後徐々に濃い色へと変化し、元のペンの色に戻ります。時間の経過で変化しますので、境目の無い綺麗なグラデーションを表現する事が可能です。

ご使用例

1. 本体からミキシングチェンバーを取り外します。図：4a
2. ペンのキャップを取り外します。ペンの両サイドには、ブラシニブとラウンドニブの2種類のニブがあり、どちらもミキシング可能です。図：4b
3. ミキシングチェンバーを、上からペン先に被せ、ミキサーニブとニブを触れさせます。図：4c
4. 必ずミキシングチェンバーは、上から垂直に被せて下さい。そうする事で、トーンング液が均一に下のニブへ流れて行きます。図：4d



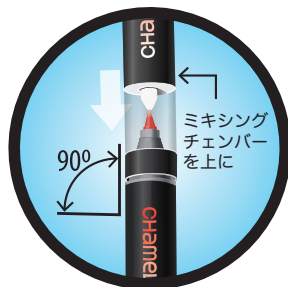
(図：4a)



(図：4b)



(図：4c)



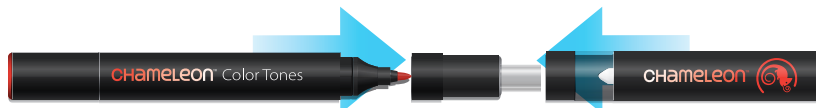
(図：4d)



ニブを薄めるためには、トーンング液をニブに接触させる必要がありますが、ミキシングチェンバーを上から被せることで、ニブ同士が接触するように設計されています。必要以上の力で、ミキシングチェンバーを被せる必要はありません。大切な事は、必ずミキシングチェンバーを上から被せる事です。



インクやトーンング液の乾燥を防ぐため、ご使用後は出来るだけお早めにペンのキャップをお閉め下さい。図：4e



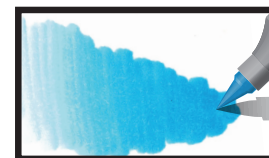
(図：4e)

色のトーンを確認する方法

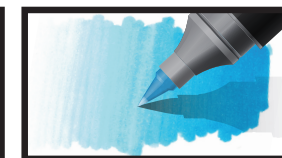
1. 作品を描く同じ材質の対象物に、トーンがどのように表現できるかテストして下さい。図：4f
2. 淡い色から徐々に濃い色へ、そして元の色へ戻ります。ミキサーニブをニブに接触させた時間により、淡い色から濃い色へ戻る時間が変化します。図：4g
3. 淡い色から濃い色へ変化している途中で、再び淡い色に戻りたい場合は、再びミキサーニブをニブに接触させて下さい。図：4h



(図：4f)



(図：4g)



(図：4h)



境目の無い綺麗なグラデーションを表現するためには、順番に塗り進める際、常に塗り終わった前の部分に塗り重なるように塗り進めていく事がポイントです。また、ニブを横に寝させて描くのではなく、ニブの先端で描く事も、もう1つのポイントです。どのような道具を使用しても、描く方それぞれの個性があります。もちろんカメレオンペンも同様で、描く方の個性で、更なる素晴らしい表現が可能となります。是非、色々とお試し頂き、独自の表現方法を見つけて下さい。グラデーションを表現している際、ニブを対象物から一度離すと、ニブに残っているトーンング液と色インクがニブ内で混ざることがあります。混ざった状態で再び描き始めると、急に濃い色が出る場合があります。再び描き始める場合は、ミキシングチェンバーを上から被せ、ニブを離れた少し前の部分から重ね描きをする事で、綺麗なグラデーションの表現が可能です。



グラデーションが綺麗に表現出来なかった際は、再度ミキシングチェンバーを上から被せ、上手く表現できなかった部分から描き直すことで、綺麗なグラデーションを表現することが可能です。

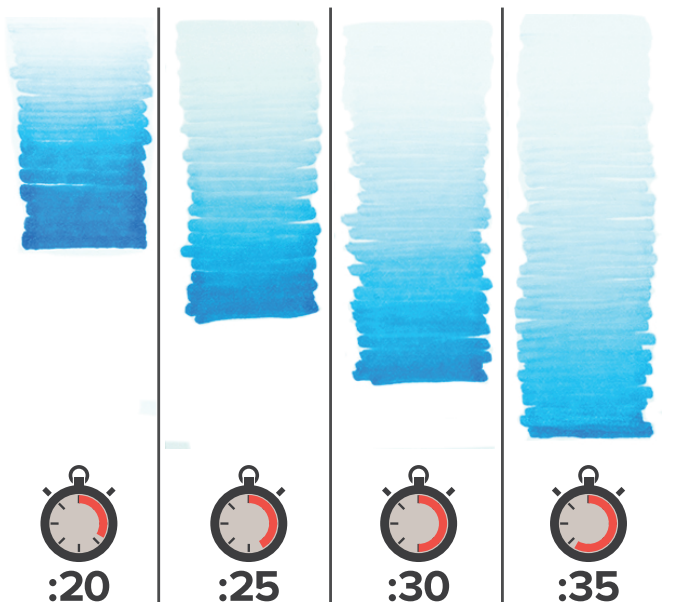
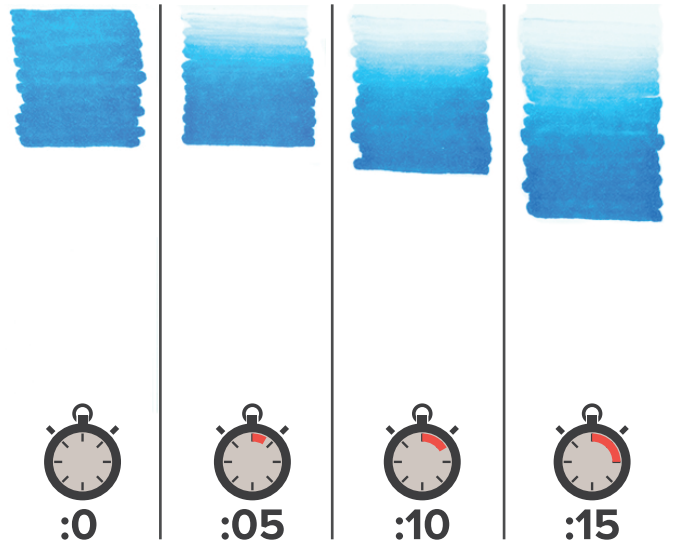


是非、動画をwww.chameleompens-japan.comでご覧下さい。

5

濃淡の調整について

カメレオンペンは、1色のペンで下のチャートの様な濃淡を表現する事が可能です。濃淡の表現の範囲を長くしたい時は、ミキシングチェンバー内のミキサーニブを、マーカーニブ先に長い間触れさせる事で、淡い色のトーン変化の時間が長くなり、元の濃い色へ戻る時間までが長くなります。つまり、ミキシングチェンバーを被せる時間により、下のチャートのような濃淡の調整が可能となります。図：5a



(図：5a)

6

奥行きや立体感・ワンペンプレンド

ハイライト：

まずは、ディティールペンで円を描きます。塗りたい色を選択し、ミキシングチェンバーを上から被せます。光源の方向から塗り始めることで、2次元で描いた球が、3次元の球体の様に表現できます。図：6a

奥行きと陰影：

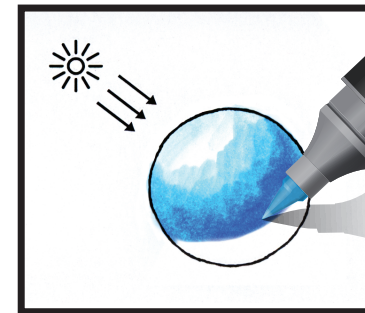
塗り進めると、元の色に徐々に戻りながら濃くなって行きます。光源に対して陰の部分を重ねて塗ることにより、陰影の表現を描けます。図：6b

立体感と影：

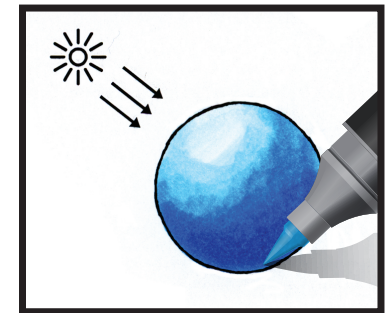
影を描く際は、影の色を選択し、ミキシングチェンバーを上から被せます。影の薄い部分から濃い方向へ塗り進めて下さい。図：6c

多色重ね塗り：

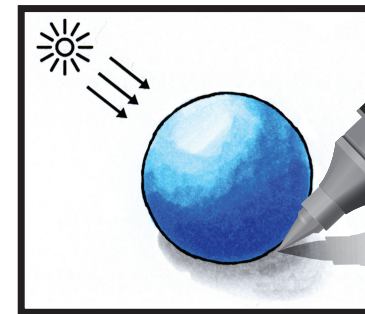
異なった色を重ね塗りする場合は、重ねて塗る色を選び、ミキシングチェンバーを上から被せます。その際いつもの被せる時間より、長めに被せて下さい。描く色のイメージを確かめるため、別の紙でトーンを確認し、ミキシングチェンバーを被せる時間を調整して下さい。図：6d



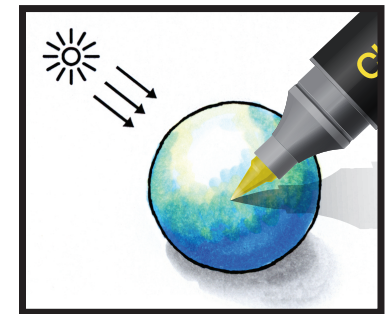
(図：6a)



(図：6b)



(図：6c)

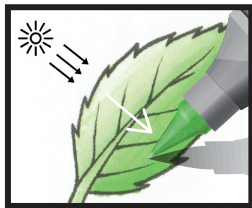


(図：6d)

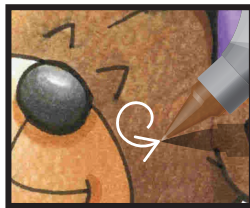
7

濃淡のテクニック

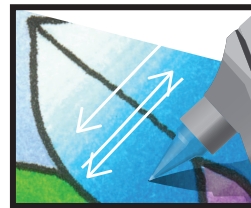
1. カメレオンペンは、淡い色から濃い色に徐々に変化します。光源の向きを想定し、光源の方向から塗り進める事で奥行などの表現が可能です。図：7a
2. 小さい丸を描くことで、水彩画のような表現が可能となり、立体感のある毛の表現を描くことが出来ます。図：7b
3. 左右端から端に塗って行くことで、綺麗で滑らかなグラデーションが表現できます。図：7c
4. 描く位置を転々と変えていくことで、色々な濃淡を表現できます。図：7d
5. イメージしたトーンより早く濃い色になった場合は、一度塗る事を中断し、再びミキシングチェンバーを上から被せ、ペン先を薄めたのち、薄いところから重ねて塗り続けることが可能です。図：7e
6. 原色のまま同じ場所を重ねて塗ることで、より濃い色が表現できます。図：7f



(図：7a)



(図：7b)



(図：7c)



(図：7d)



(図：7e)



(図：7f)



カメレオンペンは、他のアルコールペンとも並行してご使用頂けます。是非色々な表現をお試し下さい。

www.chameleonpens-japan.com

  [chameleonpens.jp](https://www.instagram.com/chameleonpens.jp)